

MAR.'90

3

昭和41年10月20日 第3種郵便物認可 第18巻286号 平成2年3月1日 毎月1回発行

空

TSUBASA NO.286

ボーイング
Boeing 727

リタイヤ直前プレビュー

アジアナ航空初便レポート
高松空港ジェット化ルポ

第6回

航空フォトコンテスト発表



世界のエアポートから 最新の情報をリリース！▶世界の



ソ連製プロペラ機のイリュージン18は国際線にも使われているが、西側へは来ないのでなかなか撮影できなかった機体だ。



ヨーロッパ内の路線の主力機であるツポレフ134。この空港にはボーディング・ブリッジはなく、すべてタラップだ。



ベオグラードから到着したJATのB737-300は東ベルリンで見られる数少ないボーイング製の機体だ。



アエロフロートは東ベルリンへ、モスクワ、レニングラード、キエフ、ミンスクなど数多くの都市から乗り入れている。



初めて東ドイツに投入された西側機A310はアジア、キューバ、そしてアテネ線で運航されている。

ヤーリー以外の検問所が、最近になって多数設けられた。電車での入国はSバーン（高架電車）の3番系統、またはUバーン（地下鉄）の2か6系統でフリードリッヒ・シュトラウゼ駅へ行く。この駅はすでに東ドイツ内になるが、Sバーンは高架で東ベルリンのSバーンとはホームが違い、東と西は厳重に分けられている。

さてこのフリードリッヒ・シュトラウゼに著くとパスポート・コントロールがあり、かなり並ばされると、厳しいチェックがあるが、日本人である我々はわりと簡単に一日ビザが取得できる。そして入国に際して25マルクの強制両替をする。これは東ドイツでの公定レートである25西ドイツマルク（DM）＝25東ドイツマルク（M）の比率で両替させられるものだが、実際にはDMの4、5分の1の価値しかない（最近になって公定レートが変更になったようだ）。

ところで読者の皆さんもご存知の通り、去年は東西ドイツにとっては歴史に残る年だった。ベルリンの壁の崩壊、東西ベルリン市民の自由な交流、今まさに東ヨーロッパが変革の時期にあるといえる。もしも東西ドイツの再統一などということが実現すれば、ヨーロッパ、いや世界地図までもが大きく塗り変えられてしまうだろう。今回のレポートは'89年9月の訪問なので、まさに改革前夜という感じだが、筆者自身、あまりに急激な変化に驚いている次第ではある。なお東西ベルリンの行き来が自由になったとはいえ、現在のところドイツ人に限っての話なので、日本人は従来どおり（本文中に記事あり）の方法をとる必要があるようだ。

エアポート情報

Vol.39

構成／谷川一巳



シェーネフェルト国際空港 (東ベルリン)

Berlin-Schönefeld

一日ビザで気軽に行ける
東ベルリン日帰り旅

まず西ベルリンと東ベルリンは壁で分断されているわけだが、道路と鉄道で一部つながっているところがある。特に道路は、それまでのチェックポイント・チ

